

Fight Poverty ～Share, Care, Love～

「家庭生活の貧困」

小林スタディグループ

I 「家庭生活の貧困」をテーマに選んだ理由

世界中の人々が戦争や貧困のない平和な社会を望んでいるにもかかわらず、なかなかその実現が難しい状況です。日本国内でも、犯罪や争いごとが増え、格差社会が生み出す貧困が問題になり、「今のこの社会、何かおかしい！」と多くの人々が感じるようになってきました。

便利快適で豊かな生活であるのに、人々は本当の豊かさを実感できない、それはやはり、本来生きる上で最も大切なもの、心の暖かさ、愛の深さ、人のつながりを置き忘れていたからではないでしょうか。そしてそれは、これらを育むことができる家庭生活が今とても希薄になり、壊れつつあることにも原因があるのではないのでしょうか。

マザー・テレサのお言葉「愛は家庭から」にもあるように、家庭は人が成長する過程で最も大切な場です。「愛に満ちた家庭で育った子どもたちは、心豊かでトラブルをあまり起こさない」と言われます。安心して豊かな社会の実現のため、私たちは今危機にある家庭生活、すなわち「家庭生活の貧困」を、取り上げることにしました。

II 「家庭生活が貧困」になった原因

①家庭の機能がお金で解決される時代

日本は戦後、豊かな生活を得るため経済先進国に追いつけ追い越せと一所懸命働いてきました。そしてその結果、経済成長も著しく、豊かな生活を得ることができたことは喜ばしいことです。しかし同時に、効率はよい方がいい、情報は多い方がいい、早い方がいい、経済成長はしなければならない、という価値観が生まれ、お金の社会ができてしまいました。

お金をより多く得るためには、いい大学いい企業に行き昇格することが重要視され、その結果、地位や名誉を獲得し、満足感を得る、そのような仮想の中で人々は非常に忙しい毎日を送ることになりました。

「忙しい」という漢字は正に「心を亡くす」と書きます。忙しいため、お金を払って家事を専門業者に任せたり、食卓に上るものは市販の出来合いばかりだったりなどと、家庭の機能がお金で解決されることも多くなりました。

②家族間のコミュニケーション不足

さらに家族が互いに顔を合わす機会も激減し、食卓を囲んでの一家団欒もなく、家族間のコミュニケーションがとれず、すれ違い・行き違い・思い違いのまま、家族が互いに思いやりを持って触れ合い理解し合うことの重要性がいつの間にか忘れられてし

まいりました。家族の暖かい触れ合いを味わえないまま、子どもたちが育ってゆき、そしてその子どもたちが大人になり家庭を持った時、自分自身が経験していないため、また同じ状況で生活をしてゆく、という悪循環も「家庭生活の貧困」を増幅させるのです。

③核家族化によってお年寄りの知恵が生かされない

また物質的に豊かになり生活に余裕ができると、各々が楽しめる生活を求めるようになり、おじいちゃんやおばあちゃんと同居することも珍しくなっていました。以前はお年寄りと同居することにより、その知恵が伝授され生活に生かされていました。

また大家族により、複雑な人間関係が養われ、自然に学校や企業などの社会生活の場での人間関係に生かされていました。核家族化も「家庭生活の貧困」に結びつくのです。

「家庭生活の貧困」の原因には制度や政治的な事等、複雑な要因が考えられますが、私たちが重要と考えたものは以上3点です。

Ⅲ家庭生活を心豊かなものにするためには

家族が心を開いて向き合うことができると、家族間コミュニケーションがとれ、互いに考えていること、思い、悩み、喜び、悲しみ等を共有し理解することができ、子どもたちは家族に守られている安心や暖かみを得ることができます。そして、自然に人に対しての思いやりや心配りが育まれて行きます。これらの精神的な過程を実現させるためには、具体的にどのような事を実行すればよいかを考えてみました。

①家族が食卓を囲む

「食事を大切にしている家庭には問題が起こりにくい」（佐藤初女さん）と言われるように、共に食卓を囲むことはとても大事です。季節のものや手間暇かけて作られた食事は人を癒し、心を開くことができるのです。

②挨拶をする

「おはよう！」「ありがとう！」「ごめんなさい！」など基本的な挨拶をきっちりすることも会話のきっかけになり、ちょっとした心の動きを垣間見るきっかけになります。また、さわやかに挨拶をすると気持ちがいいものです。

③心配りのある言葉を掛け合う

たとえば「お先にどうぞ」「お先に失礼します」「お陰さまで…」など。譲り合いや感謝の気持ちも日常的なちょっとした言葉で相手が和らぎ、家庭の雰囲気もなごやかになります。また今の時代は携帯メールが盛んで、言葉では言いにくいこともメールでは言えることもありますが、家の中に一緒にいるときは携帯メールでの会話は避けたいものです。

④おじいちゃん、おばあちゃんと触れ合う

人生を長く生きてこられたお年寄りと触れ合うと、たくさんの知恵を授けられま

す。また、昔の人はたくさんの教訓歌（例えば「足ることを知る心こそ宝船 世をやすやすと渡るなりけり」）や故事などを知っていて、生活に生かし、子どもたちに伝えたものでした。死語となってきたこれらを生かして行きたいものです。

⑤できるだけ手間ひまをかけて手作りのものを

「お母さんがつくってくれた袋」「お父さんが作ってくれた棚」などなど、親の愛が子どもに伝わります。同時に物を大切に作る心も養われます。

家庭生活を豊かにするためにできることは、まだたくさんあると思いますが、私たちが日々の生活を本当に豊かに暮らしておられる先人の方（マザー・テレサ、遠藤順子さん、佐藤初女さん、ベニシア・スタンリー・スミスさん、森一弘司教様、他）のお話や著書を参考にしながら話し合ったことは以上です。

IV 私たちの実践行動

以上、家庭生活を豊かにするためにできることをあげましたが、頭ではわかっているも、家族間に暗黙のうちに漂う意地や照れなどでなかなか切り出しにくく、声を掛け合ったり、挨拶をしたりなど実行することは敬遠されがちです。一步を踏み出せば、本当はとても簡単なことにもかかわらず。

そこで私たちは、その一步を踏み出すためのヒント・きっかけになるような知恵の言葉を集めた小冊子「知恵の花束」を作成しました。1冊では収まりきれないほどのたくさんのメッセージの宝がありました。この小冊子は、引き続きこれらのことを伝えてゆくために活用する予定です。

この4年間を振り返ると、最初の1年は世界の経済的な貧困について勉強したのですが、その貧困の根本原因が、消費社会である私たち先進国の物豊かな生活に起因していることを知りました。そして、私たちの生活こそ、本当に心豊かな生活に変えてゆかねば世界の経済的貧困がなくなることに気づきました。心豊かな社会のために、生活の基本である「家庭生活」を心豊かなものにするのが大切なのだということを改めて学びました。

勉強会を進めてゆくうちに、少しずつですが、話し合った様々なことが心に深く刻まれてゆくようでした。聖心の同窓生として、このような充実した時間を一緒に過ごすことができ感謝しています。

【追記】2008年の金融危機による経済不況で発表された「いのちを守るための緊急アピール」（日本カトリック司教協議会）を受け、私たちのグループでは、ホームレスの仕事をつくり自立を応援するための冊子「ビッグ・イシュー」を折に触れ知人に紹介し、広めることに心がけています。